

真実を伝える
組合機関紙

かいな

JMITU(日本金属製造
情報通信労働組合)
日本アイビーエム支部

東京都港区赤坂2丁目20の6
川瀬ビル5F 〒107-0052
TEL : 03-3583-9037
FAX : 03-5562-0853

定価 月 500円

2019年度組合活動方針

争議解決をステップに組織拡大しよう 第3次賃金減額裁判に勝利しよう!

第65回全国大会

JMITU日本アイビーエム支部 2018.9.29



9月29日、中央区のブーケ21において、日本IBM支部の第65回全国大会が開催され、この一年の活動総括と今後の活動方針を討議しました。今年度は、組合設立60周年にあたり、決意を新たに新体制で取り組むことを確認しました。ここに各人の今年度

の活動に向けた抱負を紹介いたします。
委員長 大岡 義久
労働者は使用者に対して弱い存在です。團結の力を示してたたかい続けることで権利救済を図ります。特に賃金減額裁判については、完全勝利を目指します。

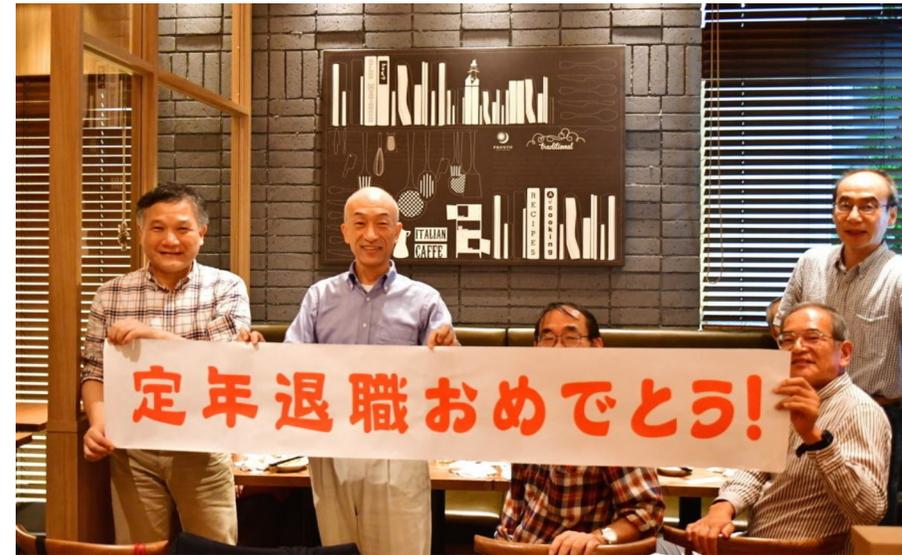
副委員長 河本 公彦
地方の発展に貢献していきたくと思っています。
副委員長 藤井 克己
会社の違法行為の追及を続けていきます。
書記長 杉野 憲作
社員の分断を許さず團結をすすめ、雇用と暮らし、権利を守るため全力でがんばります。

中央執行委員 吉岡真紀子
障がい者の地位向上と女性の活躍推進をがんばりたいです。
中央執行委員 高橋 英知
会社の理不尽な攻撃を受けた人たちに助ける活動をやりたいです。
中央執行委員 三浦 裕之
パワハラに対して徹底的にたたかう姿勢を貫き、非正規の問題にも目を向けていきたいです。

中央執行委員 安田 和
理不尽なことの多い職場ですが、自分にできることを続けて、少しでも改善できればと思います。
中央執行委員 板倉 浩
会社が言ってきたら「そういうものだ」という意識を持たず、少しは考えることができるよう様々な情報発信をしていきたいです。

中央執行委員 森谷 俊之
ハラスメントの温床になつていてPIPの理不尽さを社会に訴え、そして第3次賃金減額裁判をがんばりたいです。
中央執行委員 佐久間康晴
TSS部門は闇が深く、様々なハラスメントが蔓延しています。8月の大量出向についても「出向」とは言わずに「組織変更」と言っている状況です。今後、非組合員が大量転籍させられないよう監視していきたいと思ひます。

中央執行委員 神谷 昌平
現在いる職場を中心に個人を尊重した働きやすい話しやすい環境を形成し、ひいては会社労働環境及び賃金の向上に努めていきたいです。



杉野書記長が2018年3月末にて60才を迎え、定年退職すると同時に4月1日からシニア契約社員として再雇用されました。今回、かいな編集部でインタビューを行いましたので、以下にご紹介します。

杉野書記長へのインタビュー
かいな 定年おめでとうございます。定年にあたって感想をお願いします。
杉野 日本IBMでは50才代になると「よく生き

残ったね」とか「あと何年もつかな」などの会話が普通にされています。このことこそが、会社の異常な働き方を表していると思います。
幸い、私は多くの組合員が普通に定年まで行くのを見て、定年まで行くのは「あたりまえ」という空気の中で50才代を過ごすことができ、おかげで現在も心身ともに元気です。

かいな そんなに違うものですか?
杉野 毎日追い詰められるような働き方をしていると「精神的その日暮らし」という心身の状態になるそうです。こうなると賃上げにも関心が向かないし、自身の健康管理もおろそかになってしまいます。実際、日本IBM退職者は短命だという話もあります。
その防波堤になるのが労働組合という存在なんだと思います。定年まで行くのがあたりまえだと思つた瞬間から長期設計が見えてきます。



英語のガイドを読むとお祝いに家族を誘って良いなど、結構良い。USでは家族ぐるみでつきあいますし、マネジャーもある意味わかまえていきます。ところが具体的に進めようとするとならばあれはダメ、これはダメ。まったく違う内容になってしまっています。それで結局ブルーポイントにしました。

かいな 最後に今後の目標等をお願いします。
杉野 今後はシニア契約社員の処遇改善を目指してがんばりたいと思ひます。

かいな ありがとうございます。
杉野 ありがとうございました。

定年・再雇用おめでとう 杉野書記長を祝う

今年もノーベル賞の時期になった。いうまでもなく、ノーベル賞は世界最高の名誉である。今年には26人になった。過去の条件でしか作用しない現象だったことが後年に判明し、一般性がないというノーベル賞の誤受賞もあつた。2000年以降、日本人のノーベル賞受賞者は増えており、日本の科学技術はまだまだ捨てたものじゃないと言われるが、ノーベル賞は現在の実績が評価されているのではなく、過去の業績が評価されているのである。受賞者は、「効率だけを求めてはいけない」と謙虚に口を揃える。はたして20年後も日本人が受賞できるだろうか。今の社会は短期で結果を出すことを求め、将来への投資を放棄している。(酒)

